

令和4年度 自己評価・学校関係者評価

【総合学科】

岐阜県立恵那南高等学校 学校番号 50

I 自己評価

1 学校教育目標	社会的・職業的自立に向けた基礎となる資質や能力を培い、知・徳・体の調和のとれた心豊かな地域社会人を育成します。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> 自己の適性を理解し、自らの将来をデザインし、自己実現に向けて自発的に行動できる生徒 多様な人々と協調性をもって豊かな人間関係を築き、他者と協力して課題解決に取り組める生徒 地域との関わりを大切にし、地域の課題を発見し、地域の持続的な発展に貢献できる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の個性や能力を开花させ、将来の進路目標を実現するためのカリキュラムの編成とICT活用などによる分かりやすく個に応じた指導の実施 「探究的な学び」や教科学習、対話的な学びによる、コミュニケーション能力と自己表現力の育成 長く広い視野で自分の住む地域のことを考える心を育む教育活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動、部活動、生徒会活動などを通じて、自らの可能性に挑戦したい生徒 人との関わりやつながりを大切にし、仲間と協力しながら主体的に学びたい生徒 地域活動やボランティア活動などに主体的に参加し、地域社会で活躍したいという意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇総合学科の推進	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 産社・総合の時間の有意義性があると答えた生徒は、78%(R2)、94%(R3)、91%(R4)と増加している。総合学科の特色ある体験学習が自信につながっていると答えた生徒は、83.0%(R2)、89%(R3)、87%(R4)と増加している。 総合学科の特色ある体験学習が自信につながっていると答えた保護者は、75%(R2)、83%(R3)、83%(R4)と高い評価を得ている。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 本校を希望する生徒が増えるようPR活動を推進する。 H Pの更新、恵那南だよりの発行 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」を根幹としたキャリア教育を推進する。 職員の共通認識による意識向上と総合学科の推進を図る。 魅力化プロジェクト（6次産業学習の推進等）による活性化を図る。 	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」の具体的な取組を進める。 学校のPRを実施する。 全職員における総合学科研修会を実施する。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 企画委員会前の系列長会議の実施 (2) 産社・総合学習担当者会議の実施 (3) 学校案内パンフレット、ポスターの作成、恵那南だよりの発行 (4) 総合学科職員研修会の開催 (5) 3年次「総合的な探究の時間」での卒業研究の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒の系列決定ならびに系列学習の効率 (2) キャリアデザインノートやアンケートの実施 (3) 「産社・総合学習発表会」による評価 (4) 令和5年度希望者数 (5) 研修会アンケートの実施 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> パンフレットを作成し、中学生等に配布した。 「恵那南だより」の第1～3号を発行し、明智・山岡・岩村・上矢作・串原町民には回覧で、近隣中学校には配布した。 	①パンフレット、恵那南だよりを作成しPRに役立てることができたか。	A (B) C D

<ul style="list-style-type: none"> ・ 6次産業教育事業では、3年次ビジネスと観光系列で取り組み、栗の講義を受け「しみチョコ勝ち栗」パッケージデザインをリニューアルできた。りんご菓子の取組を通して明智ならではの商品開発ができた。「テイクアウトケーキ」は継続して販売する予定である。 ・ 卒業研究について担当教員が2週間に1回のペースで充実を図った。 ・ ドローン授業を取り入れ14回の講義を受け、地域課題への考察をした。 	<p>② 6次産業教育での取組が生徒の進路意識に役立てられたか。</p> <p>③ 卒業研究レポートや発表によりその取組が充実できたか。</p> <p>④ 地域課題への取組が考察できたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 成 果 課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」を年次集団で計画立案し実践できた。 ○ 地域連携活動がコロナ禍の中でも通常のように実施でき、生徒の理解を深められた。 ・ ▲ 広報活動としてパンフレットや「恵那南だより」の配布で、近隣中学校への広報に取り組んだが、近隣すべての中学校において希望者増とはならなかった。 ・ ▲ 科目選択や系列選択について、キャリア教育として系統立て実施できたが、進路決定に向けて十分生かされているかを再確認する必要がある。 	<p>総 合 評 価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>13</p>	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」の系統だった計画立案。 ・ 魅力化プロジェクトの充実を図る。 ・ 6次産業学習の継続とドローン学習などの新たな取組の考察。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月25日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産社・総合の時間に有意義性があると答える生徒、総合学科の特色ある体験活動が生徒の自信につながっているとこと得る保護者の割合は年々増加しており、今まで積み重ねてきた取組が成果を上げていると感じる。 ・ 「産社総合学習発表会」は素晴らしい会であった。発表を通して幅広い地域とのつながりを感じ、感動した。 ・ 中学生の間には将来の目的もなく、とりあえず普通高校に行くという流れがあるが、しっかりと将来を見つめることができる「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」はとても大切な時間だと感じた。 ・ 本校が総合学科になった時、どのような学校になるのか不安だったが、頑張っていることが分かり、安心した。 ・ これから生きていく力を育てていくためには総合学科が必要だと感じている。進学ありきの考え方が根強いと感じるが、生きていく力がとても大切であり、それを育てる必要がある。なぜ総合学科ができたのかという視点からも考え、必要性を伝えてほしい。
--